

地域と病院・職員同士の情報共有・情報交換

JCHO News

Japan Community Healthcare Organization



2026年
Vol.49

CONTENTS

02 役員メッセージ
地区担当理事ご紹介

03 新任病院長ご紹介

04 【199頁】クラウドファンディングを
活用しよう

06 【特集】JCHO病院の取り組み

14 本部医療部より

15 理事長病院訪問

Message

役員メッセージ

医療・研修担当理事

佐々木 孝治



サッカー・ワールドカップ2026が盛り上がっています。現地には行きませんが、TV観戦で楽しんでいます。気になるのは、プロリーグ等での試合数が増えて、重要な大会を前に怪我をしてしまう選手が後を絶たないことです。

働く人の健康は大事です。厚生労働省に在籍していた際は、地域医療や労働者の健康確保に係る政策に携わりました。今、新型コロナウイルス感染症、働き方改革、ベースアップ評価料等を通じて、医療従事者の待遇改

善に思いを致す取組みが続いていると承知しています。「人的資本」という言葉もあります。

これからの地域医療のためには、医療従事者が健康で生き生きと活躍できる環境づくりを一層進めることで、安全・安心な医療を提供していく必要があります。厳しい経営環境という現実とは現実として受け止めつつ、皆様からの声を頂きながら、全力で業務に取り組んでまいります。

地区担当理事ご紹介



東日本地区担当理事

内藤 浩
群馬中央病院長



西日本地区担当理事

山本 隆行
四日市羽津医療センター院長



九州地区担当理事

内山 明彦
九州病院長

新任病院長ご紹介



金沢病院

安居 利晃

座右の銘
過ぎたるは
猶及ばざるが如し



滋賀病院

中川 義久

座右の銘
至誠通天



神戸中央病院

沢田 尚久

座右の銘
万事自分次第



諫早総合病院

西村 直樹

座右の銘
真摯



中京病院

加田 賢治

座右の銘
雲外蒼天



星ヶ丘医療センター

松峯 昭彦

座右の銘
柳暗花明又一村



高知西病院

梶谷 充

座右の銘
あきらめず
努力を続けること



南海医療センター

武内 裕

座右の銘
一隅を照らす

クラウドファンディングを活用しよう

目 頃、SNSなどを通じて色々な情報を目にする機会が増えていますが、その中の一つ「クラウドファンディング」について皆さんはご存じですか？

クラウドファンディングとは、インターネット上でプロジェクトを公開し、その活動に共感した方々から広く支援を募る仕組みです。多数の団体などでプロジェクトを掲げて利用している状況です。

医療分野においても、救急車両や医療機器の購入、地域医療活動などを目的として活用されており、JCHO病院でも実際に活用事例があります。

JCHO病院の事例		
中京病院	ラビットカー	寄附額：27,048,000円
大阪病院	病院救急車	寄附額：18,105,440円
四日市羽津医療センター	健診バス	寄附額：12,357,132円



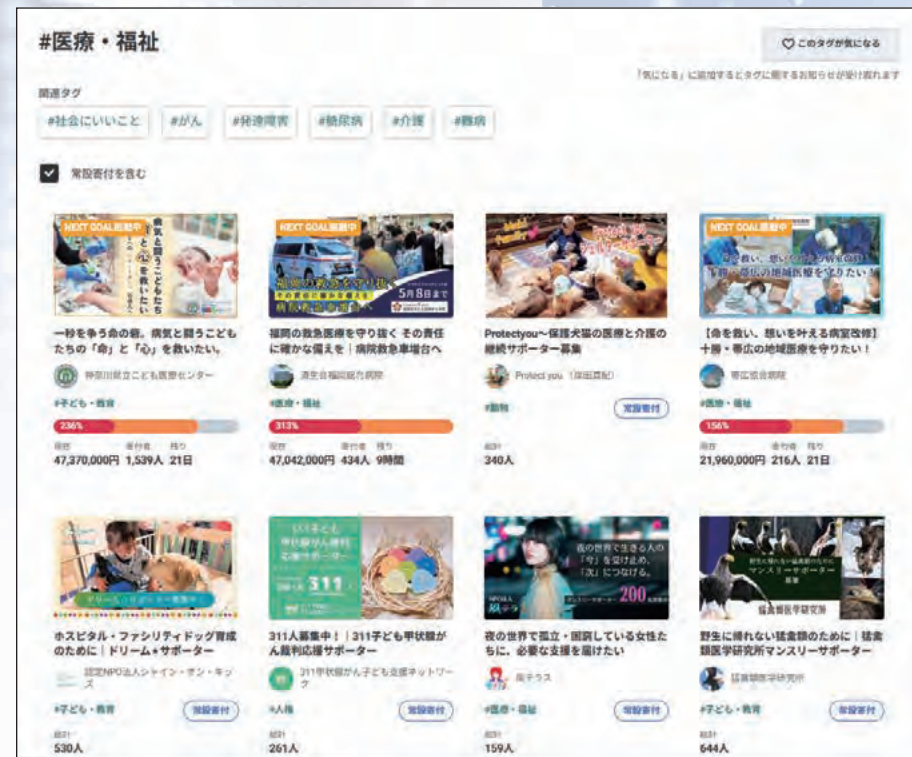
中京病院



大阪病院



四日市羽津医療センター



他団体の活用事例

JCHOは独立行政法人ですが、各種規程等を遵守したうえでクラウドファンディングを活用することが可能です。実施にあたっては、入札や運営会社との契約、必要な手続きを経て、プロジェクトページを公開し、支援を募ります。

一般的な流れとしては、①企画・準備、②申請・審査、③公開、④プロジェクト実施・報告という段階を経て進められます。掲載する写真や文章、目的や必要金額などを事前に整理することが重要となります。

また、寄附を募る性質上、返礼品については対価性のない内容とする必要があります。例えば、活動報告書の送付やホームページへの芳名掲載などが挙げられます。

クラウドファンディングは、地域住民や支援者の皆さまに病院の取組みを知っていただく契機にもなります。資金調達だけではなく、地域とのつながりや病院活動への理解を深める広報的な側面も期待されています。

次号は、実際にクラウドファンディングを活用する際の留意事項などについて紹介します。

JCHO本部広報文書課
経理課



東京新宿メディカルセンター附属看護専門学校

学び成長しつづける看護実践者の育成を目指して！
ダブルスクール制度を導入

教務主任 永原 富美子

2026年3月9日に、放送大学と連携協力協定を締結し、今年度後期からダブルスクール制度がスタートします。ダブルスクール制度には、本校と放送大学に在籍し、両校の科目を履修することで、専門士と学士を取得できるメリットがあります。

看護の学修と両立する厳しさはありますが、“自ら視野を広げ、より良い看護実践を求め学び続けたい”、そんな学生が育つ環境を整え支援していきたいと考えています。

学生の充実した学びとさらなる成長の機会とするとともに、受験生から魅力ある・選ばれる学校となるため、そして、看護専門職としての能力を備えた卒業生を輩出するために、ダブルスクール制度を開始します。



左から
東京新宿メディカルセンター関根院長
放送大学 岩永学長



秋田病院

地域医療連携推進法人
能代山本ともに医療ネットワーク設立

事務長 三浦 雅之

秋田県北部能代山本地域では、人口減少と少子高齢化の進行により、医療ニーズの変化や医療従事者の不足、医療機関の経営環境の厳しさといった課題が深刻化しています。

こうした中、地域の中核を担うJA秋田厚生連能代厚生医療センター、能代山本医師会病院、JCHO秋田病院の3病院が参画し、「一般社団法人 能代山本ともに医療ネットワーク」を設立、2026年4月1日付で秋田県の認可を受け、地域医療連携推進法人として新たなスタートを切りました。

本法人の設立にあたっては、山本修一理事長が来能し、社員総会に出席しました。総会では、3病院が連携の方向性について確認し、地域一体で医療を支えていく方針に合意しました。あわせて行われた意見交換では、現状の課題認識が共有され、連携の重要性が一層明確となりました。

8月には本法人主催によるシンポジウムを開催予定であり、これからの地域医療のかたちを地域住民とともに考えることとしています。

今回の法人設立は、地域医療を「競争」から「協調」へと導く大きな一歩です。今後は、各医療機関の役割分担の明確化と医療資源の最適化を進めながら、持続可能な地域医療体制の実現に向けて取り組んでまいります。



四日市羽津医療センター

よっかいちジュニアメディカルラリー ～地域連携で地域の高校生を育成～

看護師長 伊藤 豊晃

よっかいちジュニアメディカルラリーは、地域の高校生を対象とし、急病や事故に遭遇した場合に必要な知識・技術を学習するイベントで、今回で3回目の開催となりました。ラリーは、地域の医療関係者が手と手を取り合って有事の際に活躍できる地域の高校生を育成するという意味があります。

ラリー当日は、事前講習を受けた高校生33名が、リアルに再現された火災や事故等のブースでチームプレイを発揮し消防への通報

や応急処置を実践しました。運営においては、中京病院をはじめ、全11病院、4消防機関、6教育施設、そして自衛隊の方々のご協力を得て盛大に執り行われました。

当院の運営スタッフにとって地域の医療関係者の皆様ともにイベントに携われたことは、大変貴重な経験となりました。今回のラリーでのコミュニティを大切に、今後も地域医療を発展させていきたいと思います。



松浦中央病院

長崎県立松浦高校職場体験 ～7名の生徒さんが来てくれました～

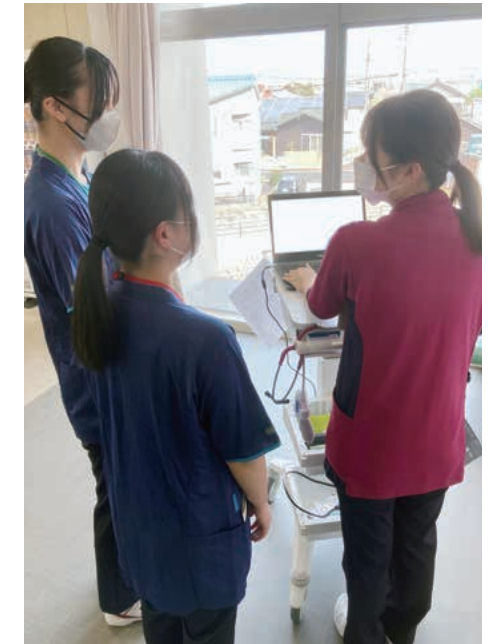
副看護部長 田邊 勝久

2026年3月上旬に長崎県立松浦高校の生徒さん7名が職場体験のために当院を訪れてくれました。

看護師4名・理学療法士2名・医療事務1名の職業体験希望でした。最初はちょっと緊張した様子でしたが、次第に笑顔も見られ、スタッフと楽しく交流する姿が印象的でした。病院での仕事は多岐にわたりますが、普段なかなか見ることができない場面を見る機会となり、働く人達の思いや働く上で大切なコミュニケーションの重要性、患者さんとの関わり方の大切さ、患者さんに接する際のマナー等を感じてもらえたのではないかと思います。

3日間という短い期間でしたが、生徒さんたち7名は熱心に話を聞かれていました。今回の体験が将来の進路選択や地域医療への関心につながると嬉しく思います。

長崎県立松浦高校7名の生徒の皆さん、ありがとうございました。



久留米総合病院

地域住民とつながる健康フェスティバルの取り組み

副看護師長 盛崎 一美
副栄養管理室長 田端 ゆかり

久留米総合病院では、地域住民とのつながりを深める取り組みとして、健康フェスティバルを毎年開催しています。昨年度は、糖尿病看護認定看護師による無料血糖測定や、地域糖尿病療養指導士の管理栄養士による栄養相談を行いました。

当日は多くの地域の方にご参加いただき、測定結果の説明や生活習慣に関するアドバイ

スを通して、健康への関心を高める機会となりました。また、参加者との対話を通じて、日頃の不安や疑問を直接伺うことができ、医療機関として地域に寄り添う役割の重要性を実感しました。今後も地域の皆様に信頼される病院を目指して、継続的に取り組んでまいります。



仙台病院

腎移植件数1,000件

移植外科医長 阿佐美 健吾

旧・仙台社会保険病院にて1976年に第1例目の腎移植術を実施して以来、2023年は年間腎移植件数36例であり、北関東・東北・北海道ブロックでNo.1でした。そして2025年10月に腎移植件数通算1000件を達成しました。長年にわたり腎移植の発展のためにご尽力を頂きました諸先生方、スタッフの皆様方に深く感謝申し上げます。仙台病院では、スタッフ間のコミュニケーションを大切にし、失敗症例もなぜそうなったのか、みんなで情報を共有し、次に生かそうと心がけています。

このたび腎移植1000件達成の記事を河北新報に掲載して頂きました。記事では当院での取り組みと併せて、ドナー不足に代表する日本での献腎移植の課題についても提言させて頂きました。この記事きっかけに家庭内で臓器移植について話し合う機会がもたれば

幸いです。

これからも患者様の生活の質向上のため、そして幸福の実現のため、ますます精進していく所存です。



宮崎江南病院

地域包括ケア研修会の開催

看護師長 野口 教子

宮崎江南病院は地域包括ケア・医療連携委員会の連携研修部会を中心に地域多職種向けに定期的に研修会を開催しています。2025年度は、『認知症初期集中支援チームによる認知症患者への対応』のテーマで宮崎市認知症初期集中支援チームによる講話と病院薬剤師が認知症に関する薬剤管理についての研修会、『高齢者の栄養管理』をテーマに管理栄養士と理学療法士による研修会を開催しました。

研修は可能な限り多くの参加ができる様にハイブリッド方式とし、地域の医療機関だけでなく、ケアマネジャーや介護福祉士、訪問看護師などの在宅の多職種へ案内し50~60名程度の参加があります。医療職だけでなく、介護職も含めた様々な職種の方に参加してもらえるように、日常業務の『あるある』や『困った』を解決し、明日からの業務に活用

できるよう分かりやすい内容で工夫して行っています。



北海道病院附属介護老人保健施設

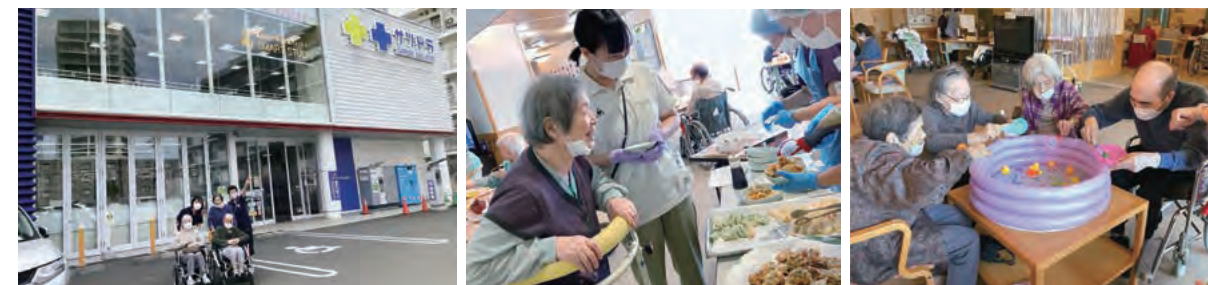
利用者と家族の満足度向上の取り組み

介護福祉士長 瀧川 芙美子
主任介護福祉士 荒木 冴里
副看護師長 鶴田 美紀

私たちは本部の「令和7年度介護老人保健施設における多職種連携に関する研修」に参加し、コロナ禍による満足度が低迷していた面会・レクリエーションの項目に着目し、満足度が向上するよう取り組みました。

利用者と家族の面会については、回数制限をなくし、面会時間を45分と拡充し徐々に緩和を図りました。レクリエーションに関しては季節ごとにあった行事を実施し、余暇時

間の充実を図るために、音楽療法やタブレットを利用したカラオケや脳トレ体操を実施しました。また、実演を交えたバイキングの開催を再開し、食農への楽しみ、そして利用者の生きがいへと繋がりました。バスツアーやお買い物ツアーを実施し、施設では見せることができない笑顔や他利用者との交流も垣間見ることができました。その結果、満足度向上へと繋げることが出来ました。



ポリバレントファーマシスト指導者研修会の開催

東京新宿メディカルセンター

副薬剤部長（本部医療課）門村 将太・薬剤部長（本部医療課薬事専門職）片山 歳也

ポリバレントファーマシスト育成研修プログラム（PPEP）の指導者養成を目的とし、教育研修実行委員会が主催で標記研修会を開催しました。本部からはPPEP審査報告、事例報告では徳山中央と新宿から発表がありました。

特別講演では、亀田総合病院薬剤部北原加奈之氏より「卒後薬剤師および指導者の育成と臨床推論の教育について」をご講演いただき、指導者が研修者と伴走しながら臨床推論を通じて問題解決につなげる教育体制について、知見が得られました。

Process 1
問題点にフォーカスした
症例プレゼンテーション

Process 2
病態生理を踏まえた症例の評価
（合う・合わない）

Process 3
患者の方針について「合意形成」をはかる

図 臨床推論の3つのプロセス
亀田総合病院・北原氏提供より一部改変

若手薬剤師による症例検討会がスタート！

～「病院の垣根」を超えて共に学ぶ～

東京新宿メディカルセンター 薬剤部 磯崎 僚・地曳 友木子

2025年度よりJCHOポリバレントファーマシスト育成研修の一環として、病院の垣根を超えた若手薬剤師中心の「症例検討会」を開始しました。

第1回は高血圧・心不全、第2回は糖尿病・癌の模擬症例を題材とし、37施設約120名が処方設計や患者指導に関する検討をオンライン形式で行いました。若手の知識・思考力の向上のみならず、指導者側にとっても新たな気づきを得る貴重な学びの場となりました。

この症例検討会を通して、JCHO全体の薬剤師の資質向上に貢献していきたいです。



理事長病院訪問



人吉医療センター



熊本総合病院



2026年3月4日付
下関市立市民病院と
JCHO下関医療セン
ターの統合に関する
締結式の様子

左から
山本理事長、下関市前田市長、市民病院田中理事長

第11回 — The 11th Annual Meeting of Japan Community Healthcare Society —
JCHO 地域医療総合医学会
会期 2026 10/9 (金)・10 (土) 会場 大阪国際会議場
大阪府大阪市北区中之島5-2-51



学会テーマ
あしたのしせい+
温かさ 真摯 対話 変える 成長 小さな一歩

会長 西田 俊朗
JCHO 大阪病院 院長

特別講演 橋下 徹
井建士

特別講演 掛布 雅之
元プロ野球選手、
野球解説者

主催 一般社団法人 地域医療機能推進学会
〒108-0074 東京都港区高輪3-22-12
TEL: 03-3445-5125 / FAX: 03-3445-5110 E-mail: info@jchs.or.jp https://www.jchs.or.jp/jcho2026/



今年は大阪にて第11回JCHO地域医療総合医学会が開催されます



編集 後記

- * 今号よりJCHO NEWSのデザインが新しくなりました。
- * JCHO病院の間でも他の病院が最近どのようなことに取り組んでいるのか意外と知らない、という声をよく耳にします。JCHOという同じ組織内だからこその他院の取り組みを自院に生かせる。これこそJCHOの強みの一つです。
- * JCHO NEWSのデザイン刷新と共に、JCHO施設間、職員間のつながりをより深めることに一層役立つ媒体に進化していきたいと思っています。
- * コミュニケーション戦略会議や本部広報文書課の仲間と共に尽力してまいります。お気づきの点やご提案、記事掲載のご希望など、どうぞ本部広報文書課までお寄せください。

本部理事（看護・介護・広報担当）島田 陽子

